



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

## 勝坂遺跡及び旧中村家住宅の 講習会参加報告

5月22日(土)に、表記についての講習会があり、参加しましたので報告いたします。

- (1) 勝坂遺蹟公園についての概略
  - (2) 公園内に再現された竪穴住居について
    - ・敷石住居展示(30号住居 レプリカ展示)  
縄文時代中期の終わり頃(約4500年前)の柄鏡の形に石を敷いた住居の復元
    - ・竪穴住居(1号住居 笹葺)  
縄文時代中期(約4700年前)の珍しい笹葺住居の復元。東京都の伊皿子貝塚(いさらご)で発見された焼失住居の調査を参考にし、笹葺住居を復元した。京都のクマザサを使用した。
    - ・竪穴住居(3号住居 土葺)  
縄文時代中期(約4700年前)の土を屋根に葺いた住居を復元。保温性に優れているが、雨漏りや湿気に難があり「冬の家」か。
- その他、柱は長持ちする栗の木を使用。柱等を縛るのに、縄を使わず細い木をねじり、紐の代わりとして縛る方法を用いていること。

管理棟での講習会



### 目次

- ① 勝坂遺跡・旧中村家住宅の講習会参加報告
- ② 星くずの里 黒耀石体験ミュージアム見学  
・上溝地区文化財のご案内 あじさい大学OB
- ③ 旧市域 最古の棟札見つかる一長島神社一  
・大沼の半左衛門地蔵 その子孫と出会う
- ④ 文化財マップ紹介～津久井地域～  
・文化財保護課からのお知らせ



勝坂遺跡公園遠景

- (3) 中村家住宅の全体概要について
    - ・主屋は幕末期の和洋折衷住宅で、当初は三階建てだったが、関東大震災後二階建てに。
    - ・建物の中は、整形四間取りが基本であり、外壁は海鼠壁(なまこかべ)になっていることなど。
- 講習会終了後、来園した大野南公民館区の方々と一緒に見学。実りの多い講習でした。今後、普及活動に協力したいと思います。

旧中村家住宅見学



(南部班 辻)

## 星くずの里 黒耀石体験ミュージアムを見学

5月20日、田名向原遺跡ボランティアガイド（田名向原遺跡案内・普及事業実行委員）31名は、バスを仕立て長野県長和町の「星くずの里 黒耀石体験ミュージアム」を見学しました。新入の4期生の歓迎を兼ねて私達ガイドとしての研修と知識向上のためです。

当日は雨模様の曇天で、朝8時に橋本駅前を出発、目的地に到着したのは昼前でした。

黒耀石体験ミュージアムでは井出学芸員の説明で館内見学後、星<sup>ながわ</sup>糞<sup>な</sup>峠から黒耀石の破片が散乱する山道をのぼり黒耀石採掘遺跡に案内していただきました。3万年前から人々は貴重な石器材料を求めてこの道を辿ったのか、と考えながら急な斜面を登るとそこが鉾山跡でした。ほとんど一面に採掘穴跡が浅い窪みとして残っています。ひととき大きな採掘跡は復元公開するため準備中で、今秋に完成すればここで記念イベントが開催されるとのことでした。この後、明治大学黒耀石研究センターを見学して3時に現地を発ち、6時半に

橋本駅に到着、解散しました。私達は、田名向原遺跡公園開園（H19年3月）以来、延べ4,625人（H22.7月現在）の見学者を案内してきましたが、皆さんに喜ばれるガイドができるよう



黒耀石採掘跡の見学

当実行委員会独自の研修事業として実施されました。今回の見学会は、

市川、内田、嶋田が指名されて準備に当たりました。大過なく実行できましたのは、関係者各位のご協力あったればこそと、感謝しております。

\*黒耀石を、ここでは黒耀石と表示しています。  
（田名向原遺跡案内・普及事業実行委員 嶋田）

## 上溝地区文化財のご案内 あじさい大学 OB サークル見学会

あじさい大学「日本史」のOB会のみなさんに上溝地区の文化財をご案内致しました。

“地元をもっと知りたい、地元の文化財を知りたい”との要望が出され、文化財保護課を通して当西部班に、案内の依頼がありました。ガイド計画を作り、打合せを行って、7月1日に現地見学会を行いました。心配していた雨天は逆に強い日差しの暑さに変わりましたが、ゆっくりしたペースで歴史散策を楽しみました。

午後1時に上溝駅集合、11名のメンバーに当方3名が加わり、文化財調査・普及員の役割等について簡単な説明を行い、文化財めぐりにスタートしました。上溝中学校脇から横山公園を抜け榎神社に参詣し見学しました。途中、横山公園の上溝城伝承や、丸崎は本丸の崎との地名の由来などを会話して進みました。



照手姫伝説伝承地

次は「照手姫伝説・伝承地」で市街部にあ

りながら、木々がこんもりと茂った姥沢地区で、初めて来た人も多く、感動に浸っていました。

炎天の中を進み、上溝小学校に向かいました。予め校内の資料館見学をお願いしており、貴重な歴史資料を見学する事が出来ました。特に圧巻は太政大臣などを歴任した明治の元勳であった三<sup>さんじょうさねとみ</sup>條実美筆と言われる「上溝学校木扁額」で桑の木1枚板（長さ136cm、幅36cm、厚さ3.4cm）のみごとな扁額です。

その後、「木造 神像坐像」が安置されている亀ヶ池八幡宮を参詣・見学し、さらに「上溝正応五年（1292）

の板碑」が安置されている安楽寺を参拝・見学しました。最後に「清水家旧主屋・長屋門」を見学し、JR番田駅で解散しました。熱心で楽しい文化財めぐりでした。



三條実美の木扁額

（西部班 嶋原）

## 旧市域 <sup>むなふだ</sup> 最古の棟札見つかるー長島神社ー

長島神社には、建造年のわかる旧市域内で最古といわれる木の板に書かれた墨書（元禄 16 年・1703）があり、神社関係者に機会があったらぜひ見たいと依頼していました。



元禄 16 年の墨書

先日、墨書の他に明暦 3 年（1657）と元禄 16 年（1703）の棟札が見つかったという連絡がありました。

この棟札は、長島神社の由緒書きには記載がありますが、昭和 59 年の相模原市の文化財現況調査の時には所在不明で、その存在が確認されていませんでした。

それは、本殿のご神体の奥に“長島大明神 鎮座”と表書きされた縦長の箱の中に納められていました。その墨跡は 350 年前のものとは思えない程鮮明に残っていました。なお、墨書板に

は棟下に打ちつけた釘も残っていました。

このことは、旧市域内最古の棟札であること、創創建年が『新編相模国風土記稿』の“元禄 16 年の再建の棟札あり”の記載より更にさかのぼる“明暦 3 西 3 月再建”と判明し、貴重な発見となりました。



元禄 16 年と明暦 3 年の棟札

※『津久井郡文化財 神社編』には 15・16 世紀の棟札の残る神社が何社か記載されています。

（東南班 安岡）

## 半左衛門と名づけられた地蔵さん ついにその子孫と出会う

大沼の地蔵堂に半左衛門と呼ばれている地蔵さんが安置されています。

### 半左衛門はうちの先祖！

長い間名前の主について墓所を調べたり、地元の人々に尋ねていました。

ところが、先日畑で偶然出会った嶋野春作さんにこれを尋ねると、「半左衛門はうちの先祖と聞いているよ」と言われ、さっそく検証してみました。

### 半左衛門は実在した

半左衛門地蔵嘉永 3 年の宗門人別帳に半左衛門の名が確かに記されています。またこの時代の家並み図を見ると半左衛門の家は、現在の嶋野本家の位置に当てはまり嶋野家のご先祖に間違いなしです。明治 10 年の戸籍帳にも半右衛門の名があり、明治の頃まで代々「半」の文字が使われていたことが分かりました。

（代々半左衛門と半右衛門の名が見られる）

### 建立の由来は伝承がある

小方文雄氏（故人）の資料によると文化年間の頃、豪雨が続き大沼の水が溢れて一帯が浸水し、何年も年貢を納めることが出来なくなった。

そこで百姓半左衛門は、領主に再三この実情を訴え免租を願い出て遂に了承された。この功績をたたえて村人がお金を出し合って地蔵を造ったと記されています。

苦難を救った半左衛門さんの地蔵、いつも赤い頭巾をかぶり、静かに人々を見守っています。



造立文化 3 年（1806）

丸彫り立像頭部補修（縦 127cm 横 25cm 厚 15cm）

所在地  
相模原市南区  
西大沼 5-2  
大沼観音堂境内  
大沼交差点から  
座間方面に向かっ  
て徒歩 5 分右側



大沼地蔵堂

（東部班 太田）

